

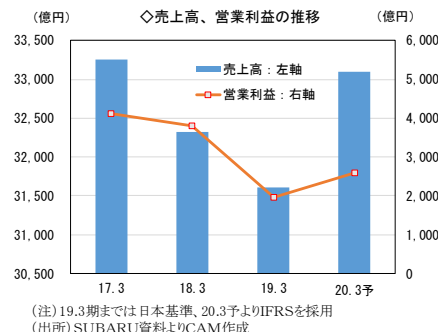
企業ニュース SUBARU

(東証1部：7270) <https://www.subaru.co.jp/ir/>

作成者：奥村義弘

北米に強みを持つ自動車メーカー

1917年に創設された「中島飛行機」を源流とする。1958年に「スバル360」を発売し、自動車メーカーとしてスタートを切った。以来、当社の個性とされる水平対向エンジンを開発、世界初の量産型乗用四輪駆動車を販売するなど「スバルらしさ」を重視した個性的な車を輩出してきた。現在の主力商品ラインアップは「レガシィ」、「フォレスター」、「インプレッサ」など。19.3期の部門別売上高構成比は自動車95.4%、航空宇宙4.2%、その他0.4%。19.3期地域別売上台数構成比は国内13.5%、海外86.5%（北米71.7%、欧州・ロシア4.0%、豪州4.2%、中国2.3%、その他地域4.3%）。



北米で良好な販売が続く

20.3期・第1四半期(4-6月)の連結業績は売上収益が8,334億円、前年同期比16%増、営業利益が922億円、同48%増。世界販売台数は26.3万台、同9%増。北米市場で、アセントおよびフォレスターが好調、国内市場では全面改良のフォレスターおよびe-BOXERを搭載した追加グレードを発売したSUBARU XVなどが好調であった。損益面では原材料・市況などの悪化要因があったが、レガシィ・アウトバックの現行モデルがモデルサイクルの終盤にもかかわらず好調で販売奨励金を抑制した。クレーム費用も大きなリコール届出が発生しなかったことから減少し、増益要因となった。なお今期よりIFRSを適用し、研究開発費の一部が資産化され研究開発費が少なかったことも増益要因となった。

20.3期の会社計画は、売上収益が3兆3,100億円、前期比5%増、営業利益が2,600億円、同43%増。北米販売は引き続き良好だが、不確定要素も多く期初見通しを据え置いた。為替前は1ドル=110円。足元の為替は円高サイドに動き業績にマイナス要因となる可能性はあるが、在庫不足の状況で需要は旺盛である。通期でも販売奨励金の抑制が可能であろう。この秋に新型レガシィ・アウトバックを投入する計画で、強い販売モメンタムも維持されよう。

【株価動向・投資判断】

円高懸念が和らいでいることは、米国依存の高い当社にプラス要因。

<7270 SUBARU 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	3,232,695 (▲3)	379,447 (▲8)	379,934 (▲4)	220,354 (▲22)	287.4	144.00
19.3	3,160,514 (▲2)	195,529 (▲48)	196,239 (▲48)	147,812 (▲33)	192.8	144.00
20.3 予	3,310,000 (▲5)	260,000 (▲43)	270,000 (▲45)	210,000 (▲49)	273.9	144.00

(注) 20.3予よりIFRSを任意適用している。20.3予の伸び率は前連結会計年度の数値を、IFRSに組み替えて表示している



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2019/9/13)	3,075 円
年初来高値(高値日)	3,134 円(19/9/12)
同 安値(安値日)	2,227 円(19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	11.2 倍
1株株主資本(PBR算出用)	2,190.7 円
P B R	1.40 倍
予想配当利回り	4.68 %
(1株当たり配当金144.00円)	
R O E (19.3)	9.4 %
発行済み株式数	76,918 万株